

芸術文化創造センター第3回 意見交換会 概要

日 時：平成27年1月18日（日）14時～16時30分

場 所：小田原市役所 議会全員協議会室

1 開会（進行：芸術文化担当課長）

- ・文化部長あいさつ
- ・本日の流れ、傍聴にあたっての注意事項等説明
 - 質問用紙の事前配布と回収のご案内
 - 第2回意見交換会（平成26年10月13日）未回答質問への回答について
 - 全体質疑について
- ・これまでの検討経緯、議会への報告等の概要説明

2 意見交換会

(1) 実施設計の検討状況（榑新居千秋都市建築設計 新居千秋氏）

あけましておめでとうございます。僕は、事務所開設以来2回目の正月2日から出勤するということで頑張っている。35年間のうち正月はほとんど休んでいたが、今年は休めなかった。

今の状況として、800枚くらいの図面を描き終えた。通常はこういうホールであれば600枚くらいである。それでも僕らは普通の事務所よりは多いが、今回は、もう少し細かいことを描かなくては終えられない。若干作業が遅れているのは、躯体の壁厚を200mmから300mm減らせるということが分かったので、描き終えていた図面の何百枚かを破棄して、変更しているからだ。僕らの体力の続く限り頑張りたい。今日、他のスタッフが来られなくて申し訳ないが、他の作業をやらないと間に合わない。ある程度、いろいろな目安は出てきた、と思っている。

前回ご説明した内容もお忘れになっているかもしれないので、改めて全部ご説明するので見ていただきたい。また、説明が終わった後に、僕らが手がけた由利本荘市の施設で市民の方が活動しているビデオあるので、それを見ていただきたい。建物が出来た時、どう皆でやれるかを考えていただく参考になればと思う。

まず10月以降変更した点についてだが、1階の搬入口のシャッターや扉の位置を専門委員の意見を受けて変更している。備品を置いた際の使い勝手なども含めて、市来委員はじめアドバイザーと打ち合わせをし、変更した。また、女子トイレが11だったのを14にしたいという要望もあり、それを変えている。2階以上のトイレについては、ブースのうち1つだけでも拡大できないか、という声もあり、そのように変更した。また、後で模型も見ていただきたいが、大スタジオの機能がとても良くなっている。以前はスノコを計画していたが、キャットウォークの方がよいのではないかと、というご提案があった。

公演にも展示にもよいということで、検討し、そのように変更し、今は鉄骨量などを計算している最中である。展示の際の照明についても検討し、美術品に影が出ないように、若干影が出ている美術館もあるが、そのようなことがないように、検討している。大きな彫刻などを置いても大丈夫だ。ホール 4 階のトイレについては、全てを女子トイレとして使う可能性も高い、という意見が出たので、男子トイレもすべて個室として計画し、運用で男女どちらでも使えるようにした。

以前ご説明したように、3、4 階までエレベータが行くようにし、既存樹木を保存して、車寄せを敷地内に入れるということについては、そのまま進めている。近隣への配慮も含めて設計を進めている。交通に配慮しなさいということについても、対応している。樹木については、樹木医の調査によれば、枝をカットしなければならないのではないか、ということだ。これは建設がはじまってからも睨み続けながらいこうと思う。建物を若干西に移動し、といっても単純に移動しただけではなく、幅を全て調整し、内法を変えずに外側だけを移動させることをし、問題を解決した。前回ご説明したと思うが、小ホールは 295 席になっている。エレベータを動かしたこと（4 階まで行くようにしたこと）で、構造を変更した。建物が柱の上にきちんと載るように対応している。エレベータの位置を変更し、各階でホール客席から外れる位置に置いたことで、コストは上がったが、理想的な形態にはなったと思う。そのコストを、躯体等を削ることで捻出しようとしているのが、今の作業だ。ただ 4 階のエレベータ前は 2,340mm しかとれない。それ以上とると客席数が減ってしまう。大ホールは 1,112 席でおおよそ決まると思うが多少の前後はあるかもしれない。バルコニー席前に取り付けられる演出用のスポットライトなどにもきちんと対応できるように改良して、劇場としてかなり良いものになったと思う。エレベータが上まで行くようになったということは、その分高さが上がり、お金も上がるということが辛いですが、全てよい方には行っていると思う。

ギャラリーは、350 m²が目標値と基本計画書に書いてあり、実際に準備室等を設けていくと減った。そこで、大スタジオと連携して使えるようにしている。あとで模型を見ていただければ、どう使えるか、もっとよく理解していただけたらと思う。大スタジオもかなり改良し、日本でも最も良いスタジオの一つになったと思う。西相展についてもチェックし、先日ご説明したと思うが、今は 3 階に分かれている展示を、1 つの階にまとめられるようになる。壁が全長で 867m とか 544m とあるが、867m というのは計算としては壁を全てとっている。その中で使い勝手がよい、実際に展示が使われているものだけを計算すると、僕らの計画している壁の方が長い。もしも、西相展をもっと盛大にやって、多めの作品を展示するという場合は、2 階も使うと、さらに同等以上の展示ができる形になっている。三ツ山委員にも見ていただいている。理想を言えばキリがないと思うが、やれる範囲内で一番良いものになっていると思う。カフェの前はパネルになっていてそこも展示ができる。展示をやっている時だけは外が見えないが、これはかなり良い仕掛けのものなので、それを入れて計算している。光天井は一般的なもので、一般の人

が使う時はそれで全てできる。あとは角度でスポットがつく等、細かいディテールを検討している。照明のコンサルタントと計算をしたり、どれくらい展示ができるか検討して、大丈夫という確証は得ているので、それで進めている。ロビーは両側でなく片側だけで計算して、満足している形になっている。大スタジオは模型も見たい。大スタジオは展示壁4枚をバラらすと壁にぴったり収まるようになっている。壁はフリースタANDINGで、上のキャットウォークから光を当てられるようになっている。

全体の結果で言えば、小ホールで30㎡、展示で13㎡、大ホール客席で26㎡を縮めた。今はフットプリントをできるだけ縮めている。建つ量を少なくコンパクトにすればするほどお金が合ってくるということがあるので、それをやっている。僕らの事務所では、まずは壁芯ではなく内寸で検討し、必要な大きさを確保した上で、最後に芯の寸法に戻すので、今その作業をやっている。

外観について、プロポーザルの際にイメージとしてこのような絵を出したが、高かったなので、ガラスを減らした。1,200枚あったが、600枚まで削った。その600枚は、もしもこれを取ると部屋に光が入らない、という限界である。庇や塀も少なくし、木を植えるなど、ひとつひとつ積算をしながら進んでいる。小ホールのフライタワーは今でも高さがあるが、下げる努力をした。こうした外構等のお金を減額して、本体にまわすようにしている。小ホールの天井は何回も模型で確認し、問題のない形にしている。音響や構造担当者と検討した。そうしてフライタワーを下げた分を、すべて描き直しているので時間がかかっている。景観評価員の方からも「緑をどのように植えた方が良いか」など色々ご意見があるので、この敷地の植生にあった木を選んで、なるべく小田原らしいものをつくろうと努力している。原則的には圧迫感がないように、調整して、不必要なものにとって、照明やライトアップで対応することも考えようと思う。建物の高さについては、先日から申し上げているとおり、天空率によって決めていて、ギリギリになっている。内部の性能はかなり検討したので、最強になったと思う。

正面からの見えがかり上は大ホールの方が奥にあるが、前から見ても小ホールの方が大ホールよりも低く見えるような形に調整した。広場からは松が見える。内部からは微妙に桜が見える。外観のモニタージュ写真をお見せする。(外観イメージを提示。)

舞台設備等についてはアドバイザーと協議して、性能を良くしようと努力した。小ホールの音響反射板については、当初は前に出すような方式が安いのではないかと考えていたが、通常の吊下げる方式の方が安い、物の値段自体は安いが実験や開発にかかる費用を考えると既存のシステムでやらせてほしいということがあったので、吊上げ式のしっかりしたものが入ることになった。基本設計時から協議を重ねる度に変更になっている。これまでのホールでは、メインのスピーカはプロセニウム手前の天井に埋め込んでいたが、今回はアドバイザー皆さんの希望もあって、僕らは「イモムシ」と呼んでいるかなり優れたスピーカを上下に昇降できるようにしている。全体に雰囲気もよくなる。シーリングスポット、フォロースポットの位置も皆さんと相談して決めている。我々の

知識に加えて、今回は専門アドバイザーの意見も入れている。どこからどう照射するか、スピーカの位置なども検討し終えた。お金の問題はあるが、ライトブリッジは入れた方がよいというご意見もあったので、第一、第二サスペンションライトはライトブリッジに変えた。オーケストラピットも全て自動で沈む形とし、何とかコストをあわせられないかというのを今検討している。技術的にどちらがよいか、と僕らに聞かれたら、「こちらの方がよい」としか言いようがない。出来る範囲内で実現しようとかなり細かく調整し終えた。僕らの設計が手間取っているのは、その分のコストを捻出するために、躯体を上げるなどしている最中だからである。これでコストが収まれば日本でも最も優れた劇場になると思う。国とかそういうレベルのものすごいお金をかけたものを除けば、そうなる。また、必ずメンテナンスができるようにもしている。こぶのようなものがついているのは、元々は躯体で厚くコンクリートを打つつもりだったが、こうした部分のコンクリートを抜いても問題なく、お金は安くなるのではないかと思い、不必要な部分を図面から抜く作業をはじめ、それに手こずっている。僕らの事務所の体力と気力の許す限り、こういうところをやっておこうということで、努力している。

東日本大震災で二次部材の滑落という出来事があったため、最近天井の中の部材を構造計算しなければいけない。その部材の角度に合わせて、人が中を歩けるように調整するため、模型で1個ずつ鉄骨を組み、そこがどうなるかを確認している。模型は大きすぎて持ってこられないが、そういったこともやっている。

ホール内部、側壁については、小田原提灯みたいに丸いものをつけて光らせようと考えている。この一月くらいの間で、予算との間で全体を考えていこうと思っている。ようやく全ての部材が揃ったので、中の音のシミュレーションと一緒に、今、あたっている。永田音響設計からほぼ完璧だという結果が出てきたので、ようやく3次元の検討を始めたところだ。壁は何かそういう小田原らしいものを、お金であう範囲で、僕らの設計としてやっていく。こうしたものの1つ1つの角度を1個決めると、音のシミュレーションをする。僕らはたぶん日本で2番目に多くホールをつくっている。つくるものは、前よりも良くなるにはいけない。1つ1つ、音をシミュレーションして、よい音になるようにやっている。壁からの離れが400mmしかない。その中で全てを調整しなければいけない。気積を大きくするのに、鉄骨を吊っている範囲内で音を調整しなくてはいけないという難しい問題があったが、それもおおよそクリア出来たと思う。天井部分の大きな模型を事務所に吊って、皆で仰向けになって見て、電気音響、建築音響の担当者の意見を聞いて、調整するだけでも何週間かスタデイしないと、音のよいものは出来ない。そういった調整をやっている。僕らの時間の許す限り行う。現場でも実験して調整する。バイオリンでも名器とそうでないものの違いは、どれだけ気力を入れて微妙な所を調整していくかということだ。どの様な角度でつくってもコストはほとんど変わらないが、音も見え方も違ってくる。

また、スピーカを吊り上げるモーターなどもあるので、それも簡単にメンテナンスで

きなければいけない。1つ1つの舞台設備機器に対してメンテナンスゾーンがとれているか、ということも確認している。ご理解いただきたいが、実施設計というのは、そういうものだ。モーターまわりのこうしたところに手が入るのかなど、そういったことを全部検討しておかないと、何年かたって、メンテナンスができなくなる。今、僕らの出来る範囲内で検討し、現場でまた全部チェックしながら、メンテナンスができるようにする。それが実施設計というものだ。そうして音のシミュレーションをして、何百枚か図面を描くと、一番音が分散してきれいだ、というところがある。ほぼ解決しつつある。だいたい出来たので、今は、最後の、テクスチャー、どういう材質だと音がよくなるか、という検討をしている最中である。

視線のチェックは、今お見せしているようなシミュレーションを全ての座席でやっているが、サンプルとしていくつかお持ちした。これを見ながら、椅子の高さを調整して、あと20mm変えよう、などという検討をしている。1cm、2cmの違いでも良いものが出る。日本ではなかなかそこまでやらないが、ほんの少しの違いが建築家のこだわりであり、僕らはそういうことを気にして全部やっている。1回コンピュータにデータを入れると、2、3週間かけて席番を全部変えなくてはならない。しかしそれをやらないで現場に行くと、ロクな音が出ないと言われてしまう。小田原は、皆さんから色々な意見、質問が出ていたので、僕としてはベストをつくらうと思って、やっている。

小ホールはフライタワーを下げた。天井反射板は吊る方式になった。舞台設備メーカーにヒアリングをして、コスト的に出来るということがわかったので、そのようにした。内部はまだ雑然としているが、ベースは、今お見せしているような形で考えている。大ホールは金額が高すぎて木が使えないが、小ホールは300席で奥行きも小さいので、できるだけ柔らかくするような、木が出ているような柔らかいもので、40cm以内で表面を検討して音が良くなるように調整している最中である。案がいっぱいあって、僕らの内部で検討している最中だ。客席に対して舞台は大きいけど丁寧に皆さんの希望を全て入れていくとこういう形になる。小ホールもサイトラインのチェックは1つ1つの点で見て、大ホールと同様に行っている。小さいから使い勝手が悪いと言われることのないようにしている。チェックをし終えたところだ。小さいが気積もきちんととろうとしている。音響のシミュレーションを何回も繰り返すと、まんべんなくきれいな音が出て、小さいホールでもよい音が響くと思う。

大スタジオは、利用バリエーションをいくつも想定している。ガラと使うこともできるし、真ん中で割って使うこともできる。十字形でも、4つ彫刻を置いたり、大オブジェを置いたり、お茶をしたり、盆栽の展示などもどのくらい出来るか検討した。上からバトンを入れたりも出来る。パネルは壁にピッタリ収まる。壁が出来る仕組みについては、模型の方がわかりやすいので、見ていただきたい。練習利用の場合、ダンス・バレエで鏡を使う場合、レクチャーやセミナーで机やイスを使う場合、またパーティにした場合はどれくらいか、そして、それらの場合に使う椅子などの備品が、全て倉庫に入る

かどうかというのも、今、チェックしている。備品のしまい方もシミュレーションしている。キャットウォークは上部にあって、物や照明器具を吊るせるので、かなりよいものになると思う。

2 階は、創造スタッフ室があり、印刷をしたり情報をここでつくったりするインフォメーションがある。ワークショップ室は 6 つのグループが作業ができるスペースと水回りがついている。僕らの大船渡市での経験では、防災上も、何かあった時に水回りがある部屋があると大丈夫である。あとはロッカーなどを員数分、置けるように検討している。また、音楽等に関する本が読めたり、情報を貼れるようなものがあつた方がよいだろうということで検討している。

なお、前回の意見交換会でご質問のあつた「カルミナ・ブラーナ」は、147 人と 30 人いて、ピアノも 2 台あるすごいものであつた。この場合、オーケストラピットが電動で上がるので、それを前舞台とすれば、全 273 人編成、指揮者 1 名がフルで載る。僕らも最初は心配したが、検証したところ、載つた。バンダ演奏についても質問があつたが検討し、出来ることを確認している。また、前舞台を使つた際の音がどうかという検討についても、永田音響設計にシミュレーションをしてもらつた。一般的な演奏条件で言えば、張り出しは、出した方が音はよくなる、と言つていた。永田音響設計は世界中で仕事をし、ウォルト・ディズニー・コンサートホール（米・ロサンゼルス）などを手掛けており、その担当者は DR コン서트ホール（デンマーク・コペンハーゲン）などを手掛けている。その人も「大丈夫だ」と言つているので、大丈夫だと信じている。張り出し舞台を使えば、大編成も出来るようになっている。

出口についてご心配されている方もいたが、小田原市は避難経路については非常に厳格だ。全ての部屋について出られるようになっている。避難階段の基準は、東京都の 1.2 倍で、神奈川県が防災上、特に避難などについては日本中で一番きつところだ。その基準に合わせて計画している。シャッターが閉まっていると使えないところがあることを仮定しても、十分な避難経路があり、問題はないと思つている。

今、僕らは、このような模型や、さらにその一部を詳細につくつたり、1 分の 1 の模型をつくつたりして、検討したりしている最中だ。

最後にビデオをご覧いただこうと思う。これは「カダレポ」と言つて、由利本荘市というまちで、僕らが一緒にやつた市民の人たちがつくつたものだ。ここは 8 万 9 千人のまちで 60 万人の人が使つている。（約 10 分のビデオ上演）

内容的にはこのような建物にはなると思う。舞台設備の機能の一部は小田原市の方がしっかりしている。由利本荘市の時には僕らは専門アドバイザーの方とはやりとりしていない。着工したら、建築のハードの部分は僕らがやるが、ソフトの部分、どうやるかは、建つている 2、3 年の間、考えて頂ければ、小田原だったら、100 万人、200 万人が来る施設になるのではないかと思う。そうなるように僕らも努力したい。

今の作業としては、大体こういう作業を終えて、最終の見積もりの直前くらいまで行

っているところである。細かいことでもご質問があれば、用紙に書いていただきたい。

(2) 管理運営の検討状況（芸術文化担当課長）

管理運営専門分科会における検討経過と担い手育成事業等関連事業のスケジュールについてご説明をさせていただく。

まず、お手元の「管理運営計画の検討経過」という資料をご覧いただきたい。運営組織、開館時間、開館日、利用申し込み、創造スタッフ室の使い方、利用料金の考え方、利用料金減免の考え方、事業について、その他、という内容について議論を重ねてきた。これらについて概ねの話の流れが決定したとご理解いただければと思う。

もう一つの資料、「担い手育成事業と関連事業のスケジュール」についてご説明する。パワーポイントの写真とあわせてお聞きいただければと思う。

アートマネージメントワークショップを全 18 回行い、その後半では「まちと一緒に創っていこう」ということで、11 月 30 日の軽トラ市で、市民が企画した事業を持ち込んで、商店街と協働してイベントを行った。

文化資源発掘ワークショップでは、市民会館の歴史、内容について、ホールをお使いになった方、見ている方も含めて、お話を伺い、劇作家の篠原久美子さんを中心に市民の方と一緒に内容をつめているところである。

音響技術ワークショップでは、ミュージックストリートに裏方として参加して下さる方のために仮設音響機材を組み立てて音を出すという体験をしていただいた。

まちあるきマップづくりワークショップでは、スタジオパンダの牛山さんを講師として、まちの中に出てリサーチをし、マップを作ることを行った。

人材育成ワークショップの演劇ワークショップでは、南河内万歳一座の座長・内藤裕敬さんを講師に、手に持った名画から各自のイメージを話合ったり、自分たちで脚本、ストーリーを考え、実際にやってみるということを行った。

普及啓発事業として行った文化セミナーはアートマネージメントの世界で活躍されている方々のお話を市民の皆さまと一緒に伺おうということで、静岡文化芸術大学の片山泰輔先生、広島市現代美術館学芸担当課長で小田原高校出身の神谷幸江さんのお話を伺った。また、この後はお手元にチラシがあると思うが、劇作家の平田オリザさんのお話を伺う予定である。

子ども向けワークショップもかなり力を入れてやってきている。子ども向けのダンス、障害者向けのダンスなど、身体で表現をして楽しむことを短い時間ではあったが行った。子ども向けでは日舞のワークショップも行った。これは神奈川県文化課が企画しているものだが、日本舞踊協会の神奈川県支部と連携して実施している。これは、教室に入ってきた時に「よろしくお願ひします」とご挨拶をするお作法から入っていくものである。他にも親子で楽しもうということで、小田原の材木を使ってカフォンという楽器を手作りするワークショップも行った。ここでは出来上がった楽器を使って全員で合奏もした。

また、クラシックバレエのアウトリーチも行った。スターダンサーズバレエ団の小山先生を中心に、見て体験しようというワークショップを行った。長唄三味線のアウトリーチも地元の先生にご協力いただいて、三味線や鼓を体験するなど、日本の古来の文化に触れるというところにも力を入れている。

鑑賞事業としては、かもめコンサートとして、かもめ図書館に寄贈いただいたピアノを活用して、定期的に若手の演奏家の演奏会を無料で聴いていただくということで、続けているところである。また、大野雄二ルパンティックファイブというジャズグループのコンサートを行った。大野さんは熱海のご出身で、小田原の城山中学校の卒業生でもある。併せて、新しい企画として「水れもんバル」と連携して、ロビーで販売し、それも楽しんでいただこうとリンクした。昨年12月には、青島広志のヘンゼルとグレーテルを開催した。手作りで、地元の声楽家の先生にもご出演いただき、合唱は小田原少年少女合唱隊であった。他に、神奈川フィルのニューイヤーコンサートも行った。指揮者の栗田博文さんは小田原高校出身ということで、コンサートの間のトークでは具体的な店名や地名なども飛び出して、大いに盛り上がり、参加された方は面白かったのではないかと思う。

非常に雑駁だが、今年度の事業の概要を駆け足で説明させていただいた。26年度の担い手育成及び関連事業等のスケジュールという資料にまとめてあるので、ご確認いただきたい。これから行う予定なのは、チラシ制作ワークショップ、子ども向けのお能の体験ワークショップ、子ども美術のワークショップ、かもめコンサートも3月に予定している。文化セミナーは平田オリザさんを招いて2月1日に開催する予定である。

では、ここで休憩を取らせていただく。受付で配布させていただいた質問用紙に、先ほど新居さんからご説明いただいた実施設計の内容について、また駆け足で申し訳なかったが今ご説明申し上げた事業についてのご質問を書いて、係員にお渡しいただきたい。

<休憩（10分）>

（3）意見交換（進行：空間創造研究所・草加）

内容	発言者
【建築】	
機能上は大変よく配慮されていることは分かりましたが、催し物がない時にも立寄りたくなるためには、建物としての魅力が必要です。オープンスペースにはどのような配慮をされていますか？特筆するような空間はありますか？	(※1)
● ここで書いた「オープンスペース」というのは、「無料で入れるスペース」を意図している。	市民1
● 僕らの調査では、ホールには年間200日くらい使われていない日がある。新	新居氏

<p>宿にあったコマ劇場は日本で一番稼働率が高かったが、それでも、165日くらいしか使われていなかった。仕込み等もあってホールに入れられない日が多くあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2階は躯体に本棚のようなものがついており、情報が貼れたり、雑誌が置けたりするような部分をつくろうと考えている。部屋として区切られてはいない。床面積を減らすために2階の床を抜いているが、求められる機能を考えるとこのくらいが限界だと考えている。1階から入ってきたときに、上を見上げて、「何かあるか」という感じになるとよい。2階には小田原城が展望できる板の間もある。一般の人が無料で休める場所をなるべく増やしている。 ● 中スタジオは、ホールで大きなバンドの公演などを行う場合は扉をロックしてホールに帰属した控室としても使えるようにしている。そうでない時には、会議やレクチャー等が出来る。倉庫に椅子や机を全て収納できるので、色々なことが出来る。 ● ワークショップルームは、桧森委員から5グループ以上が作業できるようにと言われたので、6組分の作業スペースをとり、料理教室的なこともできるよう、水回りも2機ついている。左側の水回りは、少し深くなっており、子どもたちが絵を描いたりした際にも使えるような形になっている。 ● 創造スタッフ室は、市民の方の印刷ができる場所、それを整理できる場所と、市民の創造スタッフの方がいられる場所をつくっている。 ● 図面上で「オープンスペース」と表記した場所は、腰壁くらいの高さの区切りのところに本が入るような形で、5~6,000冊の分量を入れられるベニヤ板の棚とする。ガランとしたところにただ椅子を置いて何もすることがないので、そういう使い方を考えている。 ● 質問されたオープンスペースに含めてよいのかわからないが、イベント広場も、横浜の赤レンガ倉庫と同じように、ジャックが付いていて、色々なイベントができるような仕組みをつくっていく。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● こういった施設の問題に、大ホール、小ホールで催物をやっていないときに閑散としてしまう、ということがある。ホールで催物をやっていない時でもたくさんの人にここに来ていただくことが大切だ。 ● ワークショップルームやスタジオがあるので、稼働率そのものは高くなるだろうと思う。私の理想は可見市文化創造センターだが、そこでは常にロビーに人が来ており、打ち合わせに使われている。アートに関する市民活動をやっている方々がちょっとした打ち合わせに利用されており、ホールもそれを奨励している。今回の小田原の施設でも、1階のロビーの椅子と机の並んでいるところや、2階の窓側を中心として机といすが並んでいるところを使って、くつろいだり、本を読んだりすることができる。 ● また「文化情報コーナー」という部分があるが、そこにどういった情報を集約するかが今後の課題になると思う。できれば市民が自由に手にとって読むことができるような参考図書が集積されるとよいと思う。イベントを考える時の参考になるような資料がここにあり、自由に手にとれる形がよい。「小田原の芸術文化創造センターに行く」という資料がある」「どうせ打ち合わせをするならそこに行こう」となっていくとよい。 ● もう一つの懸念はカフェだ。何とかきちんとカフェだけで成り立つような競争力のある店になってほしい。どうしたらそうなるか、皆さんのお知恵も出して頂きたいが、カフェだけでも利用される方が多くなることを期待したい。 	桧森委員
<p>今更ですが大スタジオの控室を場合によって通路に開放出来る様にするか、控室の間口を少し狭くして大スタジオの入口を拡げる事は可能でしょうか。 モックアップが出来て見ると、ギャラリーと大スタジオを両方使う大きなイベントを行う場合、多くの観客が当然想定され、入口が狭いと感じます。</p>	(※2)
<ul style="list-style-type: none"> ● 一つには音の問題がある。これはクローズにしていないとダメだろう。開け 	市来委員

<p>閉め出来るものにする、おそらく遮音性が悪くなると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大人数といっても、ここに 200 人以上が入ることはないと思うので、この扉幅があれば、避難上の問題も含めて、十分に出入りが可能ではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 避難用にはもう一つ扉がついている。 ● 控室を開放できないかは、僕らも検討したが、膨大なお金をかける場合は別として、音の関係で難しい。大スタジオできちんとした音楽をやることを成立させるためには、扉を 2 重にするようなロックをしなければならない。 ● 僕らもここに至るまで全て検討した。避難上は 2 カ所の扉、1 つは普段は裏方の人が出入りする扉として計画している。運営で扉を解放してよいということになれば、ぐるりとまわることもできるし、そうするのに十分な広さもある。控室のガラスを開くようにするというのは、お金的には、まず難しくできない。ガラスなので見える時には見えるが、防音は、音としてはしっかり遮音しないと問題になる。そう考えてつくっている。 	新居氏
<p>トイレの排水音が大ホールに響かないか。</p>	(※3)
<p>ホールの空調について、詳細は設備設計図を拝見しないとわかりませんが、室外機置場のある建築図から判断すると、ホールの空調もヒートポンプ式パッケージで考えておられるようですが、ホールでのパッケージ空調の実績はあるのでしょうか？</p>	(※4)
<ul style="list-style-type: none"> ● トイレについては排水管は全て防振吊りにして、音が出ない仕様になっている。一番問題になるのは、便器がコンクリートの床に接してくるのでそこにフラッシュバルブの音が伝播することがある点だ。我々は、躯体と便器の間にゴムを入れて振動音を抑えることを常にやっている。また、器具を取り付けるのは出来る限り床にして、壁にはあまり取り付けられないような配慮をしている。ホールに近いトイレであるが、その点には配慮して検討していく。 ● 空調は、個別の部分はパッケージとしている。ホール部分は熱源機を持った単一ダクト方式の空調システムとしている。空調機械室を大きくとっており、そこから「曲がり」を何度もとって、ホールに入るまでに音を落としていく。なるべく消音器を使わないような形で、永田音響設計と設備担当者で協議しながら設計している。熱源は電気としている。 	吉崎氏
<ul style="list-style-type: none"> ● 床下にチャンバーがある。「居住域空調」という、自分の背丈のところまでを空調する方式だ。機械室から床下に入れて、ゆっくりと出す。それも速度を計測しながら行う。 ● トイレは普段僕らはホールに近い位置に置かないが、今回は意見交換会で移動させろという声があったのでそのようにした。トイレの数もどんどん増やした。とはいえ、日本中でこの位置にトイレがあるホールは多くあり、この位置では出来ないということではない。僕らとしては出来るだけの範囲で配慮して設計する。ただ、経緯としてあえて申し上げれば、僕らが積極的にこの位置にしたわけではなく、この位置にもってこい、というご意見が多かったため、この位置にした。全体に計算したりして検討しているので、問題はないと思う。 	新居氏
<p>オーケストラピットの全自動、維持費はいくら位を予定していますか。建築費はおおよそいくらですか。ライトブリッジ 2 つは必要はありますか？他の物が吊りにくくなると思いますが、大丈夫ですか？色々つけるのもいいですが、維持管理費を良く考えないと、結局使えなくなります。</p>	(※5)
<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度は金額に関わる部分についての整備推進委員会の分科会は非公開とさせていただいている。これまでずっと公開で行ってきた会議を非公開とするのは、市民の皆さんには大変申し訳ないが、金額に関わる部分は、最後には「入札」という行為が発生するので、それも含めて配慮させていただいているところである。本日の冒頭の挨拶で、建設費について現時点で詳細を申し上げることが出来ないとお断りさせていただいたが、個別の設備についても 	文化部長

<p>同じような形でご理解を頂きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 舞台設備については、実施設計アドバイザーの皆さんと新居さんとで、非常に密な情報交換と打ち合わせをさせていただいている。コストコントロールという面で設計者にご苦勞をおかけしていることは確かだが、何かをプラスすべきだ、というご意見が出た時には、何かを削って、という議論もされている。私たちとしては、劇場の施設として、舞台設備のコストが特に突出している割合にあるという認識ではない。むしろ、平均的な舞台設備の費用割合になっており、費用の面ではバランスがとれていると認識している。新居さんのご努力と、実施設計アドバイザーのアイデアによるところだと思う。 ● 運営費についてはご指摘の通りである。ランニングコストを低減していく工夫が必要だが、一方で自動化されるなどで使い勝手がよく設備があると、それを運営する部分では、人手がかかりにくくなり、人手のコストが軽くなるということもある。バランスの問題ではあるが、設備に対してある自動化が図れば、逆に人力でやらなくてもすむ部分が出来て、ランニングコストが軽減できる側面もあるので、そういったところも含めて整理をしており、今のプランに辿り着いているとご理解頂ければと思う。 ● テクニカルな部分での回答は市来委員に願います。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 全自動オーケストラピットの維持費というのは、モーター等のメンテナンス費用であり、確かにそれは発生する。しかし、全体の施設の維持管理費に対して言えば、たとえば世田谷パブリックシアターの例では、維持管理費で1億円、人件費等も含めれば2億円近くかかっているが、そのうち迫りを含む舞台機構全体のメンテナンスは1,000万ほどである。そして、そこに小劇場も含め5台の迫り機構、バトン換算80本ほどの吊り物機構等が含まれていることを考えれば、小田原での迫り1台あたりのメンテナンス費用は全体の施設の維持管理費に対してそれほど大きなものではないと思う。 ● ブリッジに関しては、ブリッジ1本でバトン2本の場所を使っている。もしもブリッジがなければ、バトンが2本あるということになる。バトン2本であれば、それぞれにモーターが必要だが、ブリッジであればモーターは1台となる。モーターの数は減っていることになり、メンテナンス費という意味では減っている。ただ、モーター容量は大きくなっているので建設のコストは高くなっている。 ● ブリッジであれば、照明が前後に吊れるだけでなく、ボーダーライトも付いている。バトンであれば、ボーダーライトバトンが別に1本必要であるが、それが無くてすむという面もある。バトンの本数としては、ブリッジにすることで縮小されている部分もある。 ● ブリッジにすることで、その日仕込みの催物が非常にやりやすくなる。つまり特に興行系の団体にとっては借りやすくなる。仕込みに時間が必要なくなることで、旅をまわっている公演が、普通にホールに入れる。ブリッジがなくバトンだけであると、途端にためらいが出る借り手もいる。 	市来委員
<p>【運営】</p>	
<p>理念、使命について。前から小田原は歴史と文化の街という事でやってきている。センターの使命の中に「文化の継承」が入っても良いと考えます。</p>	(※6)
<p>単なるホールのイベント企画のみに目をうばわれずに、市民活動における「日常活動」が最も重要であると思うが、市民の日常活動の場をどう提供し、管理するか。(センターの運営の核と考えるべき) 運営組織の基本思想をどう考えますか？</p>	(※7)
<ul style="list-style-type: none"> ● 文化を継承していくということについては、ご指摘のとおりである。その視点で、ワークショップで日本舞踊等の古典のものを、子供たちに見ていただき、気づいてもらうという仕掛けを繰り返している。これからの公立文化施設は、その地域毎の文化の継承というものは外して考えられない。現在はそれをワークショップという形で徐々に広めているところである。 	芸術文化 担当課長

<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の文化団体の日常活動が最も重要であり、場の提供はどう行うのか、というご質問だが、会館が自主事業として鑑賞事業等を行うのはわずかな日数であり、それ以外の日に施設を使っていただく市民の方々の活動が一番重要だと考えている。そのためには舞台スタッフや制作スタッフが、日常的に貸館事業でアドバイスをしたり、よりよい演出効果を出せるスタッフワークが出来なくてははいけない。これからの地域文化施設はそうあるべきであると考え、技術スタッフ専用の部屋をつくっていただいたりもしている。今の市民会館が行っている市民の方への舞台技術のサービスは、より拡大して、向上させていきたい。市民の方の日常の活動が活発になれば、このまちが元気になると考える。 	
【組織】	
<p>芸術監督の話がありました、どうなりましたか。</p>	(※8)
<p>組織。新陳代謝→人の入れ換え？派遣社員やケイヤク？業務や地元の人とのつながりが希薄にならないだろうか？逆に TOP を任期制にしてはどうなんだろうか。</p>	(※9)
<ul style="list-style-type: none"> ● 芸術監督は、詳細についてはこれからの検討事項になるだろうと考えている。 ● 個人的な意見ではあるが、芸術監督を雇用する事については、自治体として相当な覚悟が必要だと思う。一人の方に全権を委ねることになる。その方が意図しないところに走っていかれても、止めることができない状況になる。近隣でもそうした例がいくつか見受けられる。 ● 他のやり方として、複数の芸術監督制ということも考えられる。各分野ごとに専門の方をアドバイザーのような形で契約し、配置するという例が、全国にいくつか見られる。これは今後の課題とご理解いただきたい。 ● 人材の問題、新陳代謝が必要でないか、というご指摘については、おっしゃるとおりだと思う。立場的には申し上げにくい、指定管理者制度が導入されて約10年が経過し、舞台の裏方が流動的で育っていない、ということが全国的に明らかになってきた。また、ホールの職員が地域に対する愛を持ちにくい、とも言われている。というのは、5年など指定管理期間ごとに職員が総入れ替えとなるからだ。6年目のことは、職員は考えられない。それが大きな問題として、全国の公立文化施設で表面化してきている。 ● 特にホールの技術者は特殊（危険）な設備を運転していかなければいけない。設備を熟知し、事故のないように運用することがとても大切なことだと思う。しかし、それが「言われたことだけはやるがそれ以上はやらない」という契約事項になりつつある。これから運営の詳細を決めていく中で、そういった問題がおきないように考えなくてははいけない。仕様書、契約の内容をきっちりとつくっていく必要がある。 	芸術文化 担当課長
<ul style="list-style-type: none"> ● 私の経験をお話しさせていただく。私が勤めていた会館では、初めは芸術監督を置かないで運営していた。民間人（演劇評論家）が館長となり、その下でプロパーとして演劇と舞踊の専門職員と、私が音楽担当で、3人体制で事業企画、運営を行ってきた。特にそれで問題は無かったと思う。10年前に財団が設立され、指定管理者制度による財団運営となる時に、私も職を離れることになった。そこで芸術監督を置いて欲しいという声が高まり、15年前からプロジェクトとしては関わりのあった横内謙介氏に引き継いでいくことになった。彼に芸術監督になってもらい、今もそうになっている。 ● 先ほど担当課長から話があった通り、芸術監督には全権委任しなくてははいけない、芸術監督の言うなりに動かなくてははいけない部分はある。しかし地方の都市ではなかなかそこまで任せきれない、任せてしまわない方がよいのではないかということで、私たちは外の人間として芸術監督がやっていることを監視している。ゆるやかな形でやっている。 ● 行政側の覚悟も必要なのは確かだ。芸術監督を置くのにそれなりにお金も必要だと言われれば、出さざるを得ないので、それができるかどうかという問 	井上委員

<p>題もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 芸術監督ありきで小田原で何をやっていくかを考えるよりも、これから運営を考える中で、そのためには本当に芸術監督が必要なかどうかを考えていけばよいと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 芸術監督については、例えば静岡舞台芸術センターSPACの初代芸術監督は鈴木忠志さんであったが、全てを任せる形である。「鈴木忠志さんの劇場だ」という形にするのであれば、芸術監督として任命する意味があると思う。しかし、そうではなく「色々な事をやっていく劇場だ」という形であれば、芸術監督という名前で中途半端な状態でそういった方を置くことはどうかと考える。 ● もう一点、先ほどの担当課長の意見に少し反論させていただきたい。舞台技術者については、指定管理者制度の中で劣化していく、ということではなく、実際には指定管理者制度が出来る前から、ほとんどの施設では、舞台技術の運用は舞台技術者専門派遣会社等に下請けに出されていた実情があると思う。そうすると、ある特定の人がずっとその施設にいるのではなく、派遣元の会社の都合で、常駐する技術者が変わっていく。指定管理者制度に関係なく、それが、そもそもよい状態なのかどうか、という問題があると思う。 ● 指定管理者制度で運営するにしろ、直営で運営するにしろ、大事なことは、芸術文化創造センターを一つの組織体として経営していくことであり、そのためには目標、成果をはっきりさせて、実際に運営する館長なり責任者がそこにコミットするということだと思ふ。毎年、その成果がどれだけ実現できたかをチェックする、という体制で運営する必要があると思う。 	<p>桧森委員</p>
<p>【利用料金】</p>	
<p>利用料金について具体的な金額例を出して検討してもらいたい。</p>	<p>(※10)</p>
<p>料金設定の明確な状況が分からない。→現市民会館の利用料より“ベラボー”に高くなると、利用率は低下する可能性がある。定期的に利用しているアマチュア団体には大きな負担となる。 減免措置は絶対に残して欲しい。現市民会館の1/2は本当に助かっている。</p>	<p>(※11)</p>
<p>減免・免除。減免が無くなった場合の想定されるホールの稼働率は？今現在の市民会館利用者の減免利用者の利用は新ホールにおいて減免が無くなっても利用されるのか？利用率が下がるのでは？</p>	<p>(※9)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 利用料金については、お手元のA3資料にあるように、基本的な考えとして「受益者負担」が重要であろうということと、また細かく、本番での利用であるか、リハーサルでの利用であるかなどを考えながら、色々な要素を加味して検討する必要ではないか、という議論がなされている。 ● 減免については、委員の先生方からは「無い方がよろしい」とご意見を頂いている。ただし、社会的弱者などへの配慮は必要である。しかしそれは事業で対応できるのではないか、というご意見も頂いている。 ● どちらにしても、詳細はこれから検討せざるをえない部分である。「受益者負担」については「ランニングコスト」がベースである。設計が終わっていない今の段階では、まだ、このランニングコストが見えない。他都市の事例を見て、平米あたり1万4~5,000円であるだろう、という平均値を睨んではいる。しかし新しい芸術文化創造センターのランニングコストが実際にいくらかになるかは、設計者の新居さんに努力していただいている部分もあり、まだ見えない部分もある。もうしばらく積算が必要になる。 ● 減免制度についても、ご議論が尽くされたとは思っていないので、今後も引き続き課題として議論していきたいと考えている。 	<p>芸術文化 担当課長</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 減免については、「市民活動を行政が支援する」ということの中で「支援する」一つの形として「減免」ということが起こってきたのだと思う。 	<p>三ツ山委員</p>

<ul style="list-style-type: none"> ● 私が今、館長を務める市民ギャラリーは 50 年経って新しい施設に移る。これを機に、料金の見直し等を行っている。50 年を掘り返していくと、誰がいつどう決めたのというのは、もうわからない。ただ、実際面で言うと、古いギャラリーでは、1 年間、抽選もなしに、毎年決まった団体が同じ時期に使っている、という状況があった。新しいギャラリーは、「今までそうやってきたから」という声に対して、「平等」だとか、「新しい市民活動にもチャンス」ということで、制度としては抽選制となった。 ● 「減免」は、指定管理者が決める部分でなく、行政がどう考えるか、というところでは非常に悩ましい。横浜市では「本来は行政が行うべき活動を積極的な市民団体に予算を計上して代わりにやってもらおう」という意味だと思うが、美術展など、3 つの活動に対して補助金を出し、減免を行う、という形になった。利用申し込みも抽選なし、というのが現状である。全て平等に抽選をするという話にはさすがにならなかった。 ● 「市に申請すればなんとかしてもらえ」という状態ではない。市の共催を受ければ当然減免してもらえらるわけだが、共催を受ける事が大変難しくなっている。申請してすぐに受理されるというものではなくなっている。 ● 戦後の市民活動という中では、行政が手をさしのべて二人三脚という思想、考え方があったと思う。今の現状を見ると、市民活動が活発になり、多くの方々が 1 つの会を運営されている状態で、1 人あたりいくら補助するという事に異論もある。市民の活動としては自分たちでまかなってくれないか、という考え方が行政にはあるのではないか。 ● 答えになっているかどうかかわからないが、現状報告として、横浜市ではそのような形になっている。横浜市では 30 パーセント減免である。指定管理者が共催する場合は「収入をいらない」という事と同じなので、そういう意味では 100%、50%、30%となっている。ただし、行政の場合は 30%だ。 	
--	--

他、質問用紙に頂いた内容のうち他のものは「ご意見」として紹介（質疑応答なし）。

質問一覧

<p>・機能上は大変よく配慮されていることは分かりましたが、催し物がない時にも立寄りたくなるためには、建物としての魅力が必要です。オープンスペースにはどのような配慮をされていますか？特筆するような空間はありますか？</p>	<p>(※1)</p>
<p>・今更ですが大スタジオの控室を場合によって通路に開放出来る様にするか、控室の間口を少し狭くして大スタジオの入口を拡げる事は可能でしょうか。 モックアップが出来て見ると、ギャラリーと大スタジオを両方使う大きなイベントを行う場合、多くの観客が当然想定され、入口が狭いと感じます。</p>	<p>(※2)</p>
<p>・トイレの排水音が大ホールに響かないか。</p>	<p>(※3)</p>
<p>・ホールの空調について、詳細は設備設計図を拝見しないとわかりませんが、室外機置場のある建築図から判断すると、ホールの空調もヒートポンプ式パッケージで考えておられるようですが、ホールでのパッケージ空調の実績はあるのでしょうか？</p>	<p>(※4)</p>
<p>・オケピの全自動、維持費はいくら位を予定していますか。建築費はおおよそいくらですか。 ・ライトブリッジ 2 つは必要はありますか？他の物が吊りにくくなると思いますが、大丈夫ですか？</p>	<p>(※5)</p>

・色々つけるのもいいですが、維持管理費を良く考えないと、結局使えなくなります。	
・理念、使命について。前から小田原は歴史と文化の街という事でやってきている。センターの使命の中に「文化の継承」が入っても良いと考えます。	(※6)
・単なるホールのイベント企画のみに目をうばわれずに、市民活動における「日常活動」が最も重要であると思うが、市民の日常活動の場をどう提供し、管理するか。 (センターの運営の核と考えるべき) ・運営組織の基本思想をどう考えますか？	(※7)
・芸術監督の話がありましたが、どうなりましたか。	(※8)
・ a. 減免・免除。減免が無くなった場合の想定されるホールの稼働率は？今現在の市民会館利用者の減免利用者の利用は新ホールにおいて減免が無くなっても利用されるのか？利用率が下がるのでは？ ・ b. 組織。新陳代謝→人の入れ換え？派遣社員やケイヤク？業務や地元の人とのつながりが希薄にならないだろうか？逆に TOP を任期制にしてはどうなんだろうか。	(※9)
・利用料金について具体的な金額例を出して検討してもらいたい。。	(※10)
・オケピットは、やはり設置する様だ。→今後の利用状況をしっかりと見守るぞ！ ・料金設定の明確な状況が分からない。→現市民会館の利用料より“ベラボー”に高くなると、利用率は低下する可能性がある。定期的に利用しているアマチュア団体には大きな負担となる。 ・減免措置は絶対に残して欲しい。現市民会館の 1/2 は本当に助かっている。。	(※11)
・大ホールの客席のカベは極めてシンプルにすべき。予算がひっぱくするなか、音響への配慮以外は装飾は不要。客はカベを見に来るのではない。	—
・樹木医の話の中で、根に空気を入れることにより新しい根が出てくるとい話があります。是非、桜と松を若がえられたいです。	—
・地方の有名なホールを数多く設計され、小田原の芸術文化創造センターは新たな新居作品となると思います。今からオープンするのが楽しみです。	—
・全景を現すスライドで、空が明るく（夕焼け色）になっているが、建屋の電気が点いていて、このスライドは夕方ものと考えられる。しかし、夕方には東側は真暗で、あり得ない景色である。（朝焼けと夕方がひとつになった仮想イラスト）直してほしい。	—

3 閉会（進行：文化部副部長）

文化部副部長：

会場から質問があれば受け付けたい。（挙手なし）質問がないようなので、質疑は終了とさせていただきます。

今後のスケジュールについては、次回の整備推進委員会を2月に予定している。日時は

決定次第ご案内をさせていただく。実施設計や管理運営については、まとまったところで市民説明会として開催させていただく予定である。3月を予定しているが、こちらも詳細が決定次第ご案内をさせていただく。

では、以上をもって芸術文化創造センター意見交換会を終了とさせていただく。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

以 上